

26年度 生徒アンケート【がんやがん患者についての関心、態度、考え方】

質問	事前(%)			事後(%)		
	そう思う	思わない	わからない	そう思う	思わない	わからない
a がんは身近な病気だと思う	67.6	16.2	16.2	88.9	5.6	5.6
b がんは怖い病気だと思う	97.3	0.0	2.7	94.4	2.8	2.8
c がん検診を受けられる年齢になったら、積極的に検診を受けようと思う	70.3	10.8	18.9	80.6	2.8	16.6
d がんを学ぶことで、いのちの大切さを考えることができると思う	56.8	8.1	35.1	88.9	0.0	11.1
e がんを学ぶことでがん患者への理解が深まると思う	62.2	2.7	35.1	61.1	2.8	36.1
f がん患者やその家族は、がんと向き合い一日一日を大切に生活していると思う	78.4	0.0	21.6	88.9	0.0	11.1
g がん患者への差別や偏見のない社会の実現に努めようと思う	73.0	0.0	27.0	86.1	0.0	13.9
h 家族や身近な人とがんについて話し合おうと思う	18.9	46.0	35.1	50.0	25.0	25.0

(n=36)

26年度 生徒アンケート【がんやがん患者についての関心、態度、考え方】

質問	事前(%)			事後(%)		
	正しい	誤り	分からない	正しい	誤り	分からない
a がんは体の中で異常な細胞が増えてしまう病気である	37.9	32.4	29.7	86.1	5.6	8.3
b がんになる原因は1つだけである	2.7	83.8	13.5	0.0	94.4	5.6
c がんは誰もがかかる可能性のある病気である	97.3	0.0	2.7	97.2	0.0	2.8
d がんは日本人の死因の第3位である	35.1	40.6	24.3	19.5	72.2	8.3
e がんを予防するには、たばこを吸わないこと、バランスよく食事すること、適度な運動をすることなどの方法がある	81.1	5.4	13.5	97.2	0.0	2.8
f がんを予防するには、ワクチンを受けるなどの方法がある	29.7	27.0	43.3	47.2	25.0	27.8
g がんの早期発見には、検診が不可欠である	86.5	2.7	10.8	91.7	0.0	8.3
h 体の調子が悪くないので、定期的に検診を受けなくてもよい	2.7	86.5	10.8	0.0	97.2	2.8
i がんの治療には、手術、放射線、抗がん剤の方法がある	91.9	0.0	8.1	94.4	0.0	5.6
j がんの痛みは我慢するしかない	10.8	73.0	16.2	13.9	69.4	16.7
k がんになっても充実した生き方ができる	29.7	29.7	40.6	44.5	19.4	36.1

(n=36)

26年度 教職員等関係者アンケート【学習過程に関連する評価】

[回答者]

担任(1)、管理職(1)、教諭(1)、行政職(1)、保健師(4)、指導主事(3)、栄養教諭(1)
(人)

	質問	そう思う	思わない
a	この内容は児童生徒にとって大切なことがらだと思う	13	0
b	児童生徒のこれからの生活に役に立つことがあると思う	13	0
c	児童生徒にとって新しい発見や驚きがある(あった)と思う	12	0
d	児童生徒が夢中になって勉強することができる(できた)と思う	11	1
e	児童生徒ががんについて理解を深めるための工夫ができた	10	3
f	児童生徒ががんについて考えるための工夫ができた	10	3

[関係者の主な感想等]

○同世代のがん患者が題材と言うことで、健康な生活を送っている生徒にも身近に感じられ、命の尊さや日々の過ごし方等を考えさせる素晴らしい授業であった。

○これまで改めて考えることのなかった「生命の大切さ」や「今生きている価値」について一生懸命考え、まとめ、ワークシートに書き込む姿が印象的だった。

☆がんの教育における内面へのアプローチは、道徳や学級活動で行うことが適していると思うので、**具体的な指導例が学年毎に示されると**取り組みやすい。

☆がんで家族を亡くしたり、現在闘病生活を送っている家族がいるというような生徒がいた場合、その**把握と配慮**が必要になる。

27年度 伊勢崎市立第一中学校の実施概要

時期	時間	内容
一学期	保健体育	○「健康な生活と病気の予防」 健康の保持増進と疾病の予防について理解を深める。
10月7日	特別活動 (学級活動)	(2)適応と成長及び健康安全 ○「がん予防のために できることを考えよう」 がんに対する正しい理解を深め、自らの健康を適切に管理しようとする態度を育てる ※日本対がん協会作成DVD使用
12月10日	拡大学校保健委員会	○テーマ いのちを見つめる ～がんについて考えよう～ 「がん」を予防するための生活習慣や治療の方法について認識させると共に、一人一人の「いのちの大切さ」を見つめる機会を与える。

27年度 実践地区におけるがんの教育に関する講義

【実践校対象】 8月 6日(伊勢崎南公民館)

講義 「学校でのがん教育」

講師 群馬大学大学院 医学系研究科

病態腫瘍薬理学 西山正彦 教授

【講義内容】

- 早期発見・早期治療
- がん健診の大切さ
- 保健学習だけでは十分ではない
- 質疑応答



27年度 伊勢崎市立第一中学校「特別活動」の取組



- 1 生活習慣アンケートの結果をもとに、問題点を意識化を図る。
- 2 DVD「がんって、なに」を視聴しながら、「予防」と「早期発見」を重点に理解させる。
- 3 一斉で解決方法について話し合い、情報交換を行う。
- 4 生徒一人一人に自分に適した、実践可能で具体的な目標を立てさせ、意欲化を図る。

がん教育の具体的な内容

がん教育において取り扱う具体的な内容については、「がんって、なに？」を視聴して、以下のようなことについて学ぶことができた。

ア 2人に1人ががんになる

カ がんの治療法

イ がんってなに？

キ がん治療における緩和ケア

ウ がんの最大の原因はたばこ

ク がん検診にいこう！

エ がんの原因の半分以上が生活習慣

ケ がん患者への理解と共生

オ がんの早期発見

27年度「学活」授業後 生徒の感想から

今まで身近な人ががんになつた人はいないけれど、テレビなどで見たことがあつて、身近に感じることはありました。怖いという印象はありましたが、発見が早ければ早いほど治りやすいと知って、受診できるようにになったら、受けていこうにしたいです。けれど、今の自分の生活習慣ではがんになつても不思議ではないので、そこはこれから改善していこうと、思うことができました。

2人に1人はがんになるとは知りませんでした。なので、がんは、ふと、とじゃない人になつて、初めて知りました。僕の親は、タバコを吸っています。本当に嫌です。何度も何度も注意して、止めようとはせん。受動喫煙は、一番危ない事なので、がんの事についても、今日帰つたら、言うことにします。

初めてがんのことはよくわからなかつたけれど、学習を通して、2人に1人がなり、でも早期発見ができれば9割は治るといふことで、しかも9割は生活習慣からなると聞き、これからの自分の生活を見直すことができると思いました。がん検診に行く率が少ないので自分もちゃんといい方と、思いました。

27年度 伊勢崎市立第一中学校 生徒アンケート(中学3年生)から

事前 (%)					事後 (%)				
質問	そう思う	どちらかという		そう思わない	そう思う	どちらかという		そう思わない	
		そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない		
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	73	24	3	0	94	6	0	0	
b がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。	70	27	3	0	100	0	0	0	
質問					正しい		誤り		
c がんは日本人の死因の第2位である	61		39		0		100		
h がんの痛みは我慢するしかない。	18		79		0		100		
質問	そう思う	どちらかという		そう思わない	そう思う	どちらかという		そう思わない	
		そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない		
d がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う。	58	36	3	3	75	22	3	0	
g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	55	45	0	0	72	28	0	0	

(n=33) (n=32)

27年度 拡大学校保健委員会(12月10日)の取組

「いのちを見つめる」～がんについて考えよう～

次第

- 1 Introduction ～いのちを見つめる～
- 2 DVD上映 「がんちゃんの冒険」(日本対がん協会)
- 3 講話

「がんの患者の経験を通じて」

一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン理事長
 一般社団法人 全国がん患者団体連合会理事長

天野 慎介 様

- 4 10年後の自分にメッセージ



12/10 学校保健委員会

いのちを見つめる
～がんについて考えよう～



自分の命を大切に!

学校保健委員会
「いのちを見つめる」
～がんについて考えよう～
講師 全国がん患者団体連合会
会長 天野 慎介先生

みんなの メッセージ

みなさん、こんにちは。この世界に生まれてきてくれてありがとうございます。私は、生まれてから今まで、たくさんの人から愛を受けてきました。これからも、みんなと一緒に生きていきたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。



みなさん、こんにちは。この世界に生まれてきてくれてありがとうございます。私は、生まれてから今まで、たくさんの人から愛を受けてきました。これからも、みんなと一緒に生きていきたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

みなさん、こんにちは。この世界に生まれてきてくれてありがとうございます。私は、生まれてから今まで、たくさんの人から愛を受けてきました。これからも、みんなと一緒に生きていきたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

母という、強力で
永遠の
味方をすでに手に
入れた
わたし

みなさん、こんにちは。この世界に生まれてきてくれてありがとうございます。私は、生まれてから今まで、たくさんの人から愛を受けてきました。これからも、みんなと一緒に生きていきたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

みなさん、こんにちは。この世界に生まれてきてくれてありがとうございます。私は、生まれてから今まで、たくさんの人から愛を受けてきました。これからも、みんなと一緒に生きていきたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

みなさん、こんにちは。この世界に生まれてきてくれてありがとうございます。私は、生まれてから今まで、たくさんの人から愛を受けてきました。これからも、みんなと一緒に生きていきたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

みなさん、こんにちは。この世界に生まれてきてくれてありがとうございます。私は、生まれてから今まで、たくさんの人から愛を受けてきました。これからも、みんなと一緒に生きていきたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

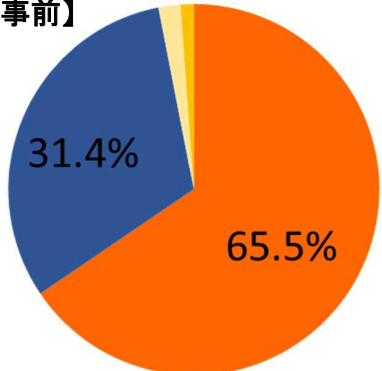
みなさん、こんにちは。この世界に生まれてきてくれてありがとうございます。私は、生まれてから今まで、たくさんの人から愛を受けてきました。これからも、みんなと一緒に生きていきたいです。

あなただけの
えがおを大切にしたいです。

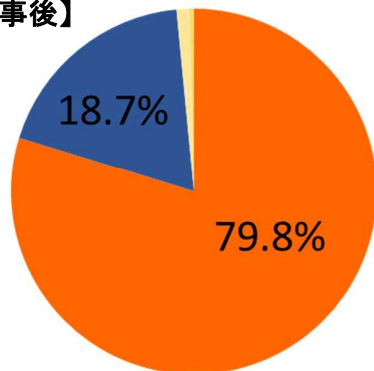
あなただけの
えがおを大切にしたいです。

【 がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ 】

【事前】



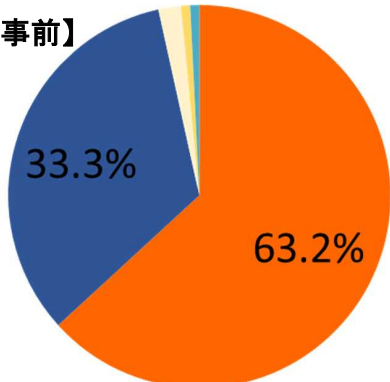
【事後】



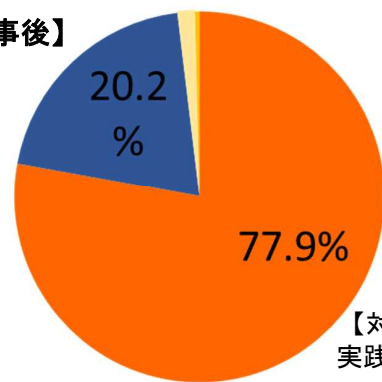
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- 思わない
- 無回答

【 がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ 】

【事前】



【事後】



【対象】27年度
実践校全児童及び全生徒

27年度 その他の取組(指導資料の作成)



保健予防課がん対策推進室
作成パンフレット

登場人物	セリフ	備考
子ども	(リーフレットを出して) 今日、学校からこれが配られたんだ。	リーフレットを持ちながら。
お家の人	(リーフレットを子どもからもらって) 群馬県の小学校6年生に、どうしても知っておいて欲しいこと「そうだったのか!がんのこと」か...	リーフレットを受け取り、表紙を見る。
子ども	お家の人もいっしょに読んで、先生が言っていたよ。	
お家の人	じゃあ、一緒に読んでみよう。 ※ここからリーフレットは、お家の人が持つて下さい。	内容を読み聞かせて下さい。
子ども	「がん」って、どんな病気なの?	
お家の人	「リーフレットを開く...「がん」って、どんな病気なの?を読む」 人間のからだは、皮ふや筋肉など、...、病気の「がん」になります。	

資料 活用シナリオ『そうだったのか!がんのこと』(名前)
※お家の人(父、母、祖父、祖母など)
準備するもの
○筆記用具
○「そうだったのか!がんのこと」(児童の人数分)
○シナリオ(人数分)

成果

- (1)【児童生徒】がんに関する内容の理解が深まったり、認識の変化が見られたりした。
- (2)【教職員等】がんの教育について考える機会となり、その必要性を感じたり、認識に変化が見られた。
- (3)外部講師との連携ができ、授業に広がりや深まりが見られた。

今後に向けて

- (1)いつ、何を学ばせるか
 - ・どの学年で、どのような内容を身に付けさせるか
- (2)どのように指導するか
 - ・指導方法
 - ・指導資料
- (3)外部講師等の確保及び研修
- (4)研修機会の充実
- (5)児童生徒への配慮について

平成27年度 がんの教育総合支援事業の取組

御静聴ありがとうございました。

伊勢崎市立第一中学校
教諭 田村 友子
群馬県教育委員会 健康体育課
学校保健係 指導主事 生形 学



群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

【メモ】

【パネルディスカッション】

テーマ1：指導内容・方法、教材等について

テーマ2：外部講師について

テーマ3：協議会の在り方について

パネリスト紹介

氏名	略歴
衛藤 隆	<p>東京大学名誉教授、大阪教育大学客員教授</p> <p>専門分野は、母子保健学、健康教育学、学校保健学、小児科学</p> <p>中央教育審議会委員、日本学術会議連携会員、環境省国立研究開発法人審議会委員、日本学校保健学会理事長、日本セーフティプロモーション学会理事長、日本健康教育学会理事などを歴任</p>
野津 有司	<p>筑波大学 教授</p> <p>専門分野は、学校保健学、健康教育学</p> <p>中央教育審議会初等中等教育分科会専門委員、日本学校保健学会常任理事、教員養成系大学保健協議会幹事長などを歴任</p>
道永 麻里	<p>日本医師会常任理事及び日本学校保健会副会長</p> <p>都内で医院を開設（内科・皮膚科）、園医</p> <p>すみだ医師会（現墨田区医師会）副会長・会長、東京都医師会理事などを歴任</p>
青木 孝子	<p>葛飾区立新小岩中学校校長</p> <p>江戸川区立松江第五中学校教諭、足立区立第三中学校教諭、千代田区立一ツ橋中学校教諭、葛飾区立奥戸中学校教頭、葛飾区立堀切中学校副校長、江戸川区立葛西第二中学校校長を経て、現職</p> <p>文科省「学習指導要領及び解説作成調査研究協力者」、厚生労働省「すこやか親子21」検討委員、中央教育審議会初等中等教育分科会専門委員などを歴任</p>

がんの教育総合支援事業成果報告会パネルディスカッション

1 進め方

時間	内容
15:20～16:00 (40分)	自己紹介 (各自 10分程度)
16:00～17:00 (60分)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 1 テーマを提示 2 会場の参加者からの意見聴取 3 パネリスト意見を発表 4 パネリスト意見交換 ◀ 5 会場の参加者からの質疑 <p>※この方法で、1テーマ 20分程度で、3テーマ実施予定。</p>

2 テーマ（昨年度モデル事業のアンケートより、テーマ選定）

テーマ1：指導内容・方法、教材等について

学校現場からの主な意見	協議会、教育委員会からの主な意見
<p>（指導内容・方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する専門知識がないので難しかった。 ・指導内容の明記などがなかったため、具体的に授業内容の指導があった方がよい。 ・発達段階を踏まえた指導内容について、全学年で理解することは難しいと感じた。中3対象が良い。 ・生徒の家族にがん治療中の方がいる場合や生徒ががん治療中の場合など、具体的な生徒への配慮について教えてほしい。 <p>（教材関係）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導内容が難しく、また発達段階に応じた指導参考資料等を準備することが困難であった。 ・資料や教材を一から考えたため、やはりある一定の教材や資料の準備（トップダウンの資料）はいると思う。 	<p>（指導内容・方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフケアを考える力を子供の頃から身につける教育が必要。 ・がん教育を導入することは良いが、どこまで教えるべきかなど検討する必要がある。 ・がんに特化するのではなく、がんを切り口にした健康教育につなげるべきである。 ・小・中・高のレベルに応じた内容を吟味すること。 ・生徒自身や家族ががん体験をしている場合にどのような対応をすればよいのかの指針があると助かる。 <p>（教材関係）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国から統一した指針や指導要領などが示されていないと現状では難しいと考える。 ・一人の教諭に負担をかけずに、効率よく教えられるパッケージ化した教材が必要である。 <p>（教職員の資質向上について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんについて正しい知識が十分でない現場の教員をサポートすることも重要である。 ・教職員研修を継続して実施する必要がある。

テーマ2：外部講師について

学校現場からの主な意見	協議会、教育委員会からの主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・学校独自の講師確保は難しい。 ・県の事業を受けての実施のため、県任せになっている。学校の負担は軽いですが、講師の方に生徒の実態などを伝える機会がなかったため、より効果的な指導内容とするために、打合せする機会が欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師として、医療関係だけでは限界があるので、がん経験者等を有効活用していく必要がある。 ・全校に展開していく必要があると思うが、外部講師に限りがあるため、今後の体制づくりやネットワークづくりに課題がある。

テーマ3：協議会の在り方について

学校現場からの主な意見	協議会、教育委員会からの主な意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の確保や協力、関係機関の連携及び支援。 ・がん教育の客観的評価（児童生徒の教育効果、学校・教育委員会の事業の企画） ・協議会が中心となり、県としてのがん教育をどうすべきかのビジョンを示すべき。 ・学校教育における生徒や保護者に対するがん教育の普及 ・学校に対する支援（助言・指導） ・教職員が正しい知識を習得するための研修の実施。専門的地域をもつ医師等の確保。 ・多方面の分野の人に対する調整役。

【メモ】

【メモ】

【事業報告】

(平成 27 年度)

自治体名	北海道
------	-----

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（15人）

大学教授1人、医師2人（がん専門医、脳神経外科医）、保健福祉部局1人、
 学校長2人（中学校・高等学校）、教諭4人（保健体育2人、養護教諭2人）、教育委員会3人、
 PTA2人

2. 検討時期、内容

【第1回連絡協議会】平成27年9月3日

- 「がんの教育推進校」での取組等、今年度の計画について協議を行い、次の意見をいただいた。
 - ・ 推進校において講演会を実施する際には、保護者に加えて地域の方々への参加も呼びかけ、地域を巻き込んだ取組が必要である。
 - ・ がん教育が重要な課題であることを学校が認識し、継続的に実施することが大切である。
 - ・ 保健の授業をはじめとする教科や領域で関連付けた、年間指導計画を学校に例示する必要がある。

【第2回連絡協議会】平成28年2月15日

- 平成27年度取組の評価及び今後の取組について協議を行い、次の意見をいただいた。
 - ・ 北海道の広域性を踏まえ、専門的な講義を行える外部講師の確保が課題である。
 - ・ がんの教育に関する研修会を通じて、教育と医療の関係者が互いの立場について理解を深め、協議を行った意義は大きい。このような機会を設けることで、がん教育についての理解が深まるのではないか。
 - ・ がん教育は特別なものではなく、他の教科と同様に、通常の授業の中の教材として取り扱われるようになることが重要である。

② 教育委員会としての取組

○ がんの教育推進校における取組

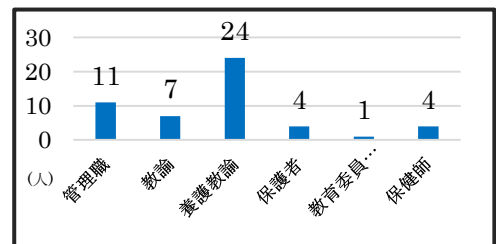
- ・ がんの教育推進校（中学校・高等学校各1校）を指定
 ※取組内容についてはモデル校における取組に記載

○ 「がんの教育」研修会の開催（平成28年1月27日）

- ・ 講義「がんの理解とその対応」
- ・ 講話「がんを経験して思うこと」
- ・ 講義「学校保健教育における『がん』の取扱い方」
- ・ 実践発表「高等学校におけるがんの教育の取組」
- ・ 協議「学校におけるがん教育の推進について」

○ 事業成果の普及

(参加者)



がんの教育実践事例

- ◆ 札幌市立東月中学校
- ◆ 北海道天塩高等学校
- ◆ 参考

がん教育推進校の実践事例

1. 実践事例の概要

2. 実践の経緯

3. 実践の成果

4. 実践の課題

5. 実践の展望

6. 実践のまとめ

平成26年度がんの教育総合支援事業研究指定校の実践を「がんの教育実践事例」としてまとめ、市町村教育委員会及び学校へ周知するとともに、Webページにアップし、事業成果の普及を行った。

<http://www.dokyojoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ktk/H26gannokyokuikujissennjirei.pdf>

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・北海道対がん協会との連携により、がんの教育推進校や北海道教育委員会主催の研修会において専門医やがん経験者などの講師を派遣した。
- ・保健福祉部の事業に協力し、小学校 8 校において「がん教育出前講座」を実施した。

(2) モデル校における取組

【札幌市立簾舞中学校】

実施日	実施内容
9/25(金)	◇道徳<全学年及び保護者> ○講演「がんのことを知ろう」 講師：北海道がんセンター院長 近藤 啓史 氏 ・がんの基本的な知識について 講師：がんサポーター 内山 浩美 氏 ・がんとの向き合い方、生き方について
9/28(月)	◇校内研修会 ○講義「学校保健教育における『がん』の取り扱い方」 講師：北海道教育大学札幌校教授 渡部 基 氏 ・がん教育のねらい ・学習指導要領との関連 ・がんを指導する際の配慮事項
9/28(月) ~ 10/2(金)	◇学級活動(1時間)<第3学年> ○オリエンテーション ・がんの授業の進め方 ○事前アンケートの実施
10/19(月) ~ 10/22(木)	◇教科「保健体育」(各学級1時間)<第3学年> ○生活習慣病とその予防 ・がんの発生要因 ・がんの予防方法 ・DVD「がんって、なに?いのちを考える授業」の視聴
11/11(水) ~ 11/16(月)	◇教科「保健体育」(各学級1時間)<第3学年> ○喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ ・喫煙とがんの関係 ・喫煙の断り方
11/17(火) ~ 11/24(火)	◇道徳(各学級1時間)<全学年> ○生命の尊重 ・かけがえのない生命、生命の尊さ ・自他の生命の尊重



【北海道天塩高等学校】

実施日	実施内容
10/26(月) ~ 10/29(木)	◇SHR<全学年> ○生徒向け事前アンケートの実施
11/2(月)	◇教科「保健体育」科目「保健」、特別活動<全学年及び保護者> ○講話「生活習慣病～がんについて考えよう～」 講師：特定非営利活動法人がんサポーター北海道・がんの語り手 佐々木 初美 氏 講師：K K R 札幌医療センター斗南病院・腫瘍内科医長) 杉山 絢子 氏
11/2(月) ~ 11/13(金)	◇教科「保健体育」科目「保健」<1、2年生> ○生徒向け事後アンケートの実施 ◇SHR<3年生> ○生徒向け事後アンケートの実施
11/12(木) ~ 11/13(金)	◇教科「保健体育」(各クラス1日2時間実施)<第1学年> ○「がんの発生要因」や「がんの予防方法」 ・日常生活行動と深い関係があること ○「がん検診」や「がんの治療法」、「緩和ケア」 ・1～3次予防の必要性や考え方 ・がんとの向き合い方やいのちの大切さ ※グループワーク、ペアワーク、発表を行うなど、生徒が主体的に取り組むよう工夫した。 ※生徒が講話を振り返り、授業とリンクさせることで知識の定着を図った。
11/17(火)	◇校内研修会 ○講話「学校におけるがん教育の方向性とその対応」 講師：北海道教育大学札幌校教授 渡部 基 氏 ・がんの教育研究の第一人者による教職員向け講話を実施した。 ○教職員向けアンケートの実施
1/27(水)	◇平成 27 年度「がんの教育」研修会 ○「がんの教育」研修会(道教委主催)における実践発表



2. 事業の達成度について

○ 生徒に対するアンケート結果

	中学校〈事業1年目〉		高等学校〈事業2年目〉	
	事業前	事業後	事業前	事業後
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ	87.6%	100%	99.3%	100%
がんは日本人の死因の第2位である（誤りの回答率）※	22.9%	91.3%	59.2%※	95.5%※
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う	72.9%	91.3%	94.9%	98.1%
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う	62.5%	86.9%	86.0%	93.6%

○ 「がんの教育」研修会

教職員等を対象として、保健教育の専門家、がん専門医、がん経験者による講義を実施した。研修後のアンケート結果では、「大変満足」と「やや満足」を合わせると96%となっており、参加者からは「がんの予防や早期発見の大切さについて理解することができた。」「学校におけるがん教育の目標など、学校におけるがん教育の在り方について理解を深めることができた」等の感想が寄せられ、がんの基本的な知識や学校においてがん教育に取り組む上での課題等についての理解が深まったと考えられる。



3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

○ がんの教育推進校の生徒に対するアンケート結果から

- ・中学校においては、がんを予防するための生活や検診の必要性、がんに関する知識について、学習効果が見られた。
- ・高等学校においては、2年間継続してがん教育を実施した。事業前後の結果に差がないことから、がんを予防するための生活や検診の必要性についての知識は定着していると考えられるが、事業前に半数近くが誤答している内容※もあることから、反復継続した学習が必要である。

○ 次年度の取組

- ・生徒や教員に対する講演会を実施する際には、がんに関する正しい知識及びがん患者に対する正しい理解の深化が図られるよう、医師等の専門家に加え、がん経験者による講話を引き続き取り入れる。
- ・一方的に講義や講演を聴かせるのではなく、グループワーク等により思考力や判断力を養うことが重要である。
- ・知識を定着させるためには、発達の段階に応じた指導計画を策定するなどして、反復継続した学習を行う必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- がん教育の実施に当たっては、北海道保健福祉部など関係機関の協力を得て専門機関と連携し、専門的な講義を行える外部講師の確保が重要である。
- 現行の学習指導要領の中で各学校におけるがん教育を進めるために、推進校における実践例を紹介する必要がある。
- がんに関する正しい理解を深め、学校におけるがん教育の必要性を周知するため、引き続き管理職を含む教職員等を対象とした研修会を行う必要がある。